

令和7年度「学業指導応援チーム派遣事業」の実施校における取組 小山市立間々田東小学校 全学年

1 取組の概要

『子どもの実態に合わせ、よさを生かした「集団づくり」と「授業づくり」』

児童一人一人が主体的に学びに向かえるよう、アンケート結果を基に実態や課題を明確にし、「児童のよさを生かした授業実践」について全教職員で協議を重ね、各学年で設定した目標に向けた具体策をPDCAサイクルにのせて実施した。

(1) 児童の現状等

- 学校全体としては、授業に集中して臨んでいる児童が多い。しかし、自ら進んで取り組もうとしたり、主体的に学ぼうとしたりする姿勢には課題を感じている。
- 一部の児童が意欲的に授業に参加できない現状がある。それにより、学級全体の雰囲気 が乱れたり、学びに向かえなくなったりすることがある。
- 多くの児童は、「わかるようになりたい」「できるようになりたい」と強く思っており、授業の中で喜びや達成感を味わいたいと願っている。

(2) 期待する児童の姿

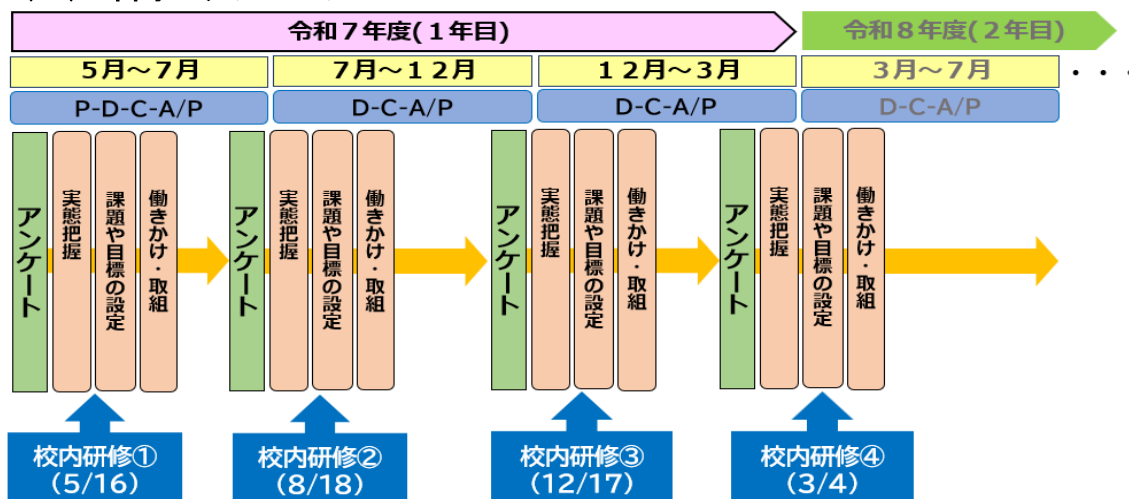
- 互いを思いやり、よさを認め合いながら、授業やその他の活動に主体的に取り組むことができる。
- 周囲の雰囲気に影響されることなく、互いに声を掛け合ったり、助け合ったりしながら意欲的に授業に取り組むことができる。
- 授業において、「できた」「わかった」という喜びや達成感を味わうことができる。

(3) 主な取組

- 「学びに向かう集団づくり」「子どもが意欲的に取り組む授業づくり」に向けて、教職員が共通理解を図り、互いに学び合いながら日々の児童指導や授業研究に取り組む。
- 児童の自己肯定感や自己有用感が高まるような学級の雰囲気作りのために、児童が互いを認め合ったり、助け合ったりする場を意図的に設定する。
- 児童が自信をもって安心して学び、喜びや達成感が味わえるよう、授業における児童へのかかわりや学習活動を工夫する。

2 PDCAサイクルで進めた組織的な取組

(1) 年間スケジュール



【アンケート項目】

1. 学校が楽しい 2. みんなで何かをするのが楽しい 3. 授業に進んで取り組んでいる 4. 授業がよくわかる

(2) 校内研修の内容

年間4回のアンケート調査結果を基に、各学年ブロックで児童の課題を把握・焦点化し、設定した目標実現のための具体策について協議した。(本資料は3回目までの内容)

(3) 各学年における課題及び目指す児童の姿と実践した取組

【1学年】

焦点化した項目 「授業に進んで取り組んでいる」

目指す児童の姿

- ・ 先生や友達の話をよく聞き、反応している。
- ・ めあてに向かって、一生懸命考えたり、書いたりしている。
- ・ やってみようと、前向きに取り組んでいる。

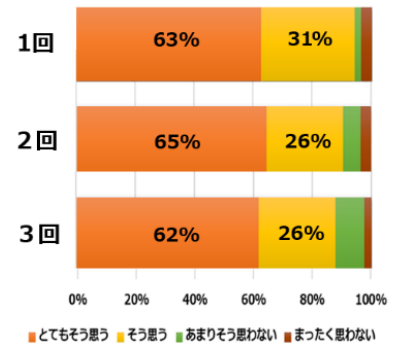
具体的な取組

- ・ 学習準備、水やり、発表、聴く(反応している)等、児童が進んで取り組んでいることを褒める、伝える。
- ・ できている場面の写真を撮って掲示し、理想の姿を児童と共有して、必要に応じて振り返る。
- ・ どの児童も自信をもって取り組めるように「できそう、やりたい!」と思えるようなモールステップにする。
- ・ ペア活動の際に、友人の考えのいいところを見つけて発表する。

児童の変容

- ・ めあてをみんなで考えて、みんなで頑張ろうという雰囲気が出てきた。
- ・ 友達の話聞いて、質問をしたり考えを広げたりして楽しむ様子が見られた。
- ・ 授業の課題に対して、頑張ってみようという姿が見られた。

授業に進んで取り組んでいる



【2学年】

焦点化した項目 「授業がよくわかる」

目指す児童の姿

- ・ 先生や友達の話をしっかり聴いている。
- ・ 児童同士での学び合いが活発に行われている。
- ・ 授業に進んで取り組んでいる。
- ・ 基礎・基本が定着している。

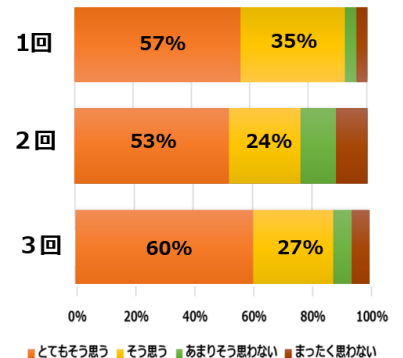
具体的な取組

- ・ 授業や活動にメリハリをつけて進める。
- ・ 聴く力を育てるため、朝の会で教師の話をも隣同士で確認し合う時間を意図的に設ける。
- ・ ねらいに応じて意図的にペアを設定し、グループ学習やペア学習を取り入れる。
- ・ 児童の考えをつないで深められるようにする。また、時間配分を工夫し、集中力が続くような活動を構成する。
- ・ 得意な児童や意欲の高い児童の力を伸ばし、生かす工夫をする。

児童の変容

- ・ 教師や友達の話をしっかり聴こうとする姿勢が高まった。
- ・ 子どもたちが授業に前向きに取り組む姿が見られつつある。
- ・ ペア学習を行うことで、自分の意見を書こうとする様子が見られた。

授業がよくわかる



【3 学年】

焦点化した項目 「授業がよくわかる」

目指す児童の姿

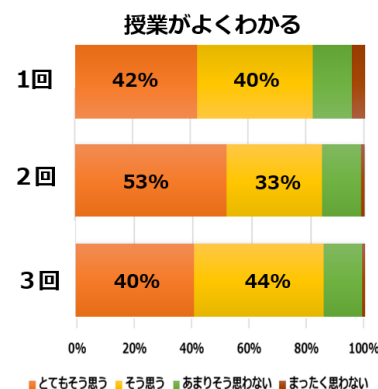
- ・ 授業に進んで取り組む。
- ・ 基礎基本が定着できている。
- ・ 人の話を聴けるようにする。

具体的な取組

- ・ 学習意欲が高まる導入を工夫する。
- ・ 学習意欲を継続させるためのペアやグループ学習等の学習形体を工夫する。
- ・ 課題の量を個別化し、各教科において発展・補充課題を選択できるようにする。
- ・ 友達の発表をしっかりと聴けるよう指導する。
- ・ 振り返りににおいて、学んだことや友達と関わったことを記述させる。

児童の変容

- ・ 発表する児童に対して正対できる児童が増えた。
- ・ 分からないところをそのままにせず、担任に聞いて解き直す児童が見られた。
- ・ 課題量を選択できるようになってきた。
- ・ 振り返りの内容に、「学習したこと」や「できるようになったこと」を記述できるようになってきた。



【4 学年】

焦点化した項目 「授業がよくわかる」

目指す児童の姿

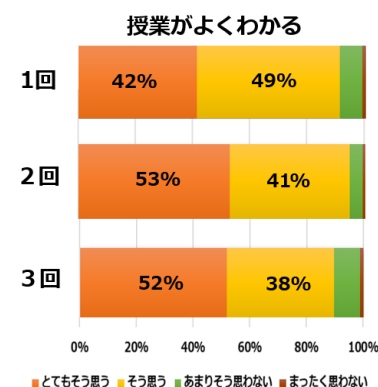
- ・ 自分で考えて、授業に意欲的に取り組む。
- ・ 教師や友達の話を聞いて、反応することができる。

具体的な取組

- ・ 問題を全体で進め自信を持たせたうえで個人の活動に移る。
- ・ 少しでもできたら褒める。
- ・ 何をすべきなのかを細分化し示す。
- ・ 時間のメリハリをつける。
- ・ 待ち時間を作らない、集中力が継続する授業の工夫をする。
- ・ しっかりと聴くことで周りの反応を感じ、思いを伝えられるようにする。
- ・ 教師や友達の話に反応する。

児童の変容

- ・ 問題を全体で進めることで、意欲的に取り組もうとする児童が増えた。
- ・ 文章を書く課題では、スモールステップや教師の見本を見せることで、課題に取り組もうとするようになった。
- ・ 児童の聞く態度を待つことで、相手の話を聞く姿勢が育っていった。



【5 学年】

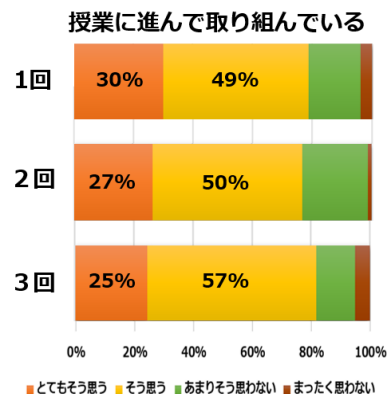
焦点化した項目 「授業に進んで取り組んでいる」

目指す児童の姿

- ・ 自ら意欲的に考え、学習に取り組む。
- ・ 自分のめあてに向かって、粘り強く取り組む。
- ・ 漢字、計算等の基礎基本の定着。

具体的な取組

- ・ 児童一人一人が活躍できる場を意図的に設定し、良いところを認め、褒め、励ます。
- ・ 一人ひとりの実態に合った「目指す具体の姿」をイメージし、児童と共有する。(聴く+α・挙手・発展課題・周りへの影響・あっという間に時間が過ぎた等)
- ・ 学年で歩調を合わせて、計算力アップのための取組をする。



児童の変容

- ・ 各学級や学年の活動で、一人一役を意図的に役割分担したことで、それぞれの児童が事前に考えたり、本番で生き生きと活動したりする姿が見られた。
- ・ 毎回5分程度で行える3年生のかけ算やわり算の計算問題を、各学級で続けてことにより、どの児童も計算を楽しみ、学習を進めることができた。
- ・ 学習だけでなく、朝の会や帰りの会で、スピーチなどを通して聞き方や話し方を指導しながら進めたことで、集中して友達や教師の話に耳を傾ける姿が多くみられるようになった。

【6 学年】

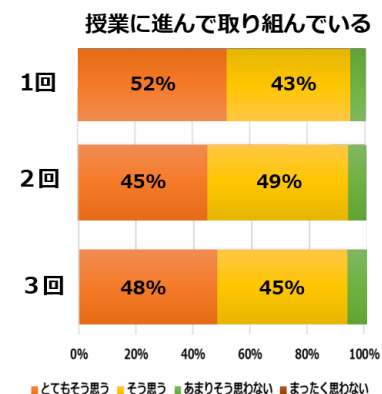
焦点化した項目 「授業に進んで取り組んでいる」

目指す児童の姿

- ・ 自らの課題に粘り強く取り組むことができる。
- ・ 自分の意見を発表したり、友達の話真剣に聞いたりしながら、話合いに進んで参加することができる。

具体的な取組

- ・ 復習に力を入れる。
- ・ 個に応じた支援ができるよう、習熟度別の学習を実施する。
- ・ 学力が高い児童に対しては、中学校へつながるような、より高難度の問題に挑戦させる。



児童の変容

- ・ 友達と協働的に課題に取り組むことが出来るようになった。
- ・ 話合いに進んで参加し、自分の意見を表出できる姿が多く見られるようになった。
- ・ 算数の学習において、習熟度別の学習を行ったことで、学習意欲の向上が見られた。

【えがお・きらり】

焦点化した項目 「授業がよくわかる」

目指す児童の姿

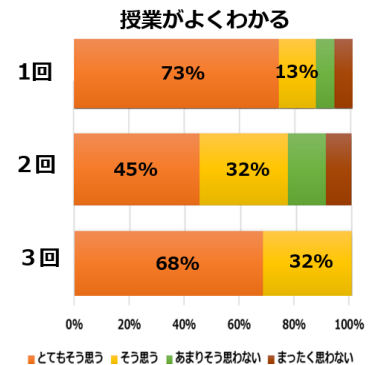
- ・ 「わかる」ことへの楽しさが感じられる。
- ・ 自分のやるべきこと、できることにしっかり取り組む。

具体的な取組

- ・ 交流教科を支援学級でフォローする。
- ・ 授業で達成感や充実感が味わえる場面設定を工夫する。
- ・ 個に応じた交流学級に参加する授業を考える。(時間割の編成)
- ・ 交流担任と授業内容を共有する。事前に児童に伝えることで学習の見通しをもたせる。

児童の変容

- ・ 個に応じた学習内容や学習ペースにすることで、集中して取り組む時間を延ばしたり基礎基本の定着を図ったりすることができた。
- ・ 交流学級担任と密に連携を図ることで、交流学級での授業をフォローすることができた。



3 成果

【児童の変容】

- 自由進捗学習、協同学習、習熟度別学習等を行うことで、進んで学習に取り組む児童が見られた。
- やるべきことを明確化することで、めあてをしっかりと意識でき、学級全体の学びに向かう姿勢が整ってきた。
- ペアでの伝え合いを通して、自分の意見に自信をもって積極的に発表できるようになってきた。



【先生方について】

- 具体的な取組をしたことで、帰属意識や規範意識の高い学級を目指せた。
- 児童実態の理解や把握に努めたことで、取り組むべきことが見えやすく、考えやすくなった。
- 実態に合わせ、何が必要なのかを考え、実践していこうとする意識が高まった。



【取組の手応え】

- 個人学習の時間を設定したことで、自分の考えをもてる児童が増えた。
- 規範意識の高さを目指したことで、時と場に応じた行動がとれるようになってきた。
- 児童実態の理解や把握に努め、それらに応じた取組を心がけたことで、学級全体の学習意欲が高まった。

4 今後の取組

- 学びに向かう集団において互いに高め合える集団づくりに努める。
- 児童が自信をもって活動できるように、一人ひとりに活躍の場を設定したり、実態に合わせた学習を展開させたりしたい。
- 低学年は集中力が持続しないため、学習内容を段階的に区切り、スモールステップで授業を展開したい。
- 児童実態の理解と把握に努め、学習や集団づくりへ向けた取組方を検討していく。
- 学年や学校全体で、振り返りを実施し、取り組みの工夫や改善に努める。

5 参考資料

○ 活用したワークシート

令和〇年〇月〇日
 学業指導応援チーム派遣事業 第〇回訪問
 〇〇市立〇〇〇〇学校

サイクルで進める組織的な取組
 ～子どもたち一人一人が大切にされ、安心して学ぶことができる集団づくりと授業づくりのために～

1 学業指導応援チーム派遣事業の目的

学業指導の理解及び効果的な取組の実践に向けた指導助言等を通じて、各学校における学業指導の一層の充実を図る。

2 学校生活アンケート結果(別紙)

3 サイクルで進める組織的な取組のために

(1) 実態把握

	担当学年 or ブロックの結果を記入しましょう	「とてもそう思う」の回答数			
		5月	7月	12月	3月
ア	学校が楽しい				
イ	みんなて何かをするのは楽しい				
ウ	授業に進んで取り組んでいる				
エ	授業がよくわかる				

(2) 課題

課題	課題決定とその理由
ア 学校が楽しい	
イ みんなて何かをするのは楽しい	
ウ 授業に進んで取り組んでいる	
エ 授業がよくわかる	

(3) 目標設定

次回の達成目標	目標達成に向けた具体的な取組
ア 学校が楽しい	
イ みんなて何かをするのは楽しい	
ウ 授業に進んで取り組んでいる	
エ 授業がよくわかる	